



その  
4  
財務部

管內經濟情勢報告

平成十三年十月、財務課では管内経済情勢を次のとおり取りまとめまし

概況

最近の管内経済情勢をみると、個人消費は先行きに対する不透明感がみられるものの、現状底堅く推移している。住宅建設、公共事業は前年を上回っているものの、盛り上がりに欠けている。また、十三年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。観光も現状高水準を維持しているものの、先行きに対する不透明感がみられる。

上記のとおり、企業活動をみると、生産は総じて低調な動きとなつてゐる。十三年度上期の企業収益は増益見込みとなつてゐるので、企業の景況感は後退してゐる。

「このよう」で管内経済は、現状底堅さはあるものの、盛り上がりに欠けており、先行きに対する不透明感がみられる。

## 個人消費は主要スーパーがこのとこ

**設備投資**は十三年度は全産業で前年度を下回る計画となつてゐる。  
**公共事業**は公共工事前払保証請負額でみると、県、市町村等で前年を上回つてゐるもの、盛り上がりに欠けてゐる。

**住宅建設**は新設住宅着工戸数が全体でも前年を上回っているものの、新設住宅着工床面積は前年並みとなりおらず、盛り上がりに欠けています。資金別の着工戸数では、公的資金が前年を下回っているものの、民間資金が前年を大幅に上回っています。

主要ホテルの客室稼働率は前年を上回つており、客室単価は前年を下回つてゐる。客単価は前年並みとなつてゐる。

**觀光**は観光入込客が五ヶ月連続で増加するなど、現状高水準を維持しているものの、米国のテロ事件の影響などから先行きに対する不透明感がみられる。

耐久消費財では、家電製品は猛暑効果でエアコンが好調なもののOA機器や白モノ家電などが前年を下回っている。新車及び中古車販売は堅調な動きとなっている。

このように、個人消費は、先行きに対する不透明感がみられるものの現状底堅く推移している。

る持ち直しの動きがみられ、百貨店は前年並となってるものの、先行きに対する不透明感がみられる。【ハリ】

企業の景況感は、現状（十三年七月～九月期）では、製造業で「下降」超幅が拡大しているほか、非製造業で「下降」超幅が拡大していることから、全産業では、「下降」超幅が拡大してくる。

十三年度定期子、製造業、非製造業とも増益となりましたが、全産業では増益見通しとなつてゐる。

十三年度通期は、製造業で減益となりましたので、非製造業で増益となりましたが、全産業で増益見通しです。

十三年度上期は、前年同期に比べて、製造業で大幅な減益とみてよいものの、ワードの高い非製造業で増益とみてよい」とから、全産業では増益見込みとなつてござる。

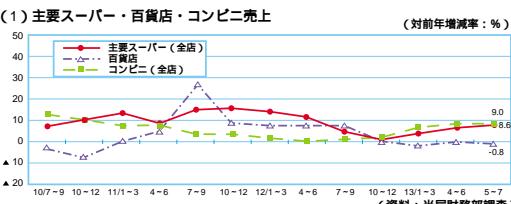
また、食料品では、発泡酒、県外向けの泡盛、パン・めん類が好調な動きとなつてゐるもの、ビール、食肉加工品が低調に推移してゐる。

このように、生産活動は一部において好調な動きもみられるものの、総じて低調な動きとなつてゐる。

**企業収益** (石油、電気、ガスを除く) は

**生産活動**は、県外向けのアルミニ型材が好調な動きをみせておりものの、セメント、生コン、棒鋼は前年を下回って

表-1 個人消費…先行きに対する不透明感がみられるものの、現状底堅く推移している



## (2) 家電製品販売

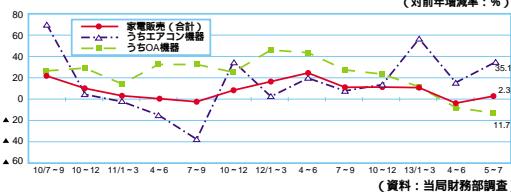
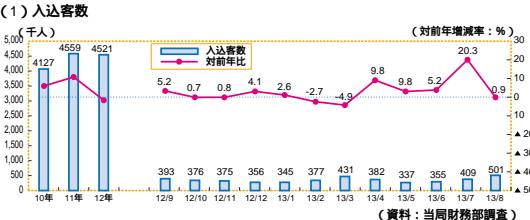


表-2 観光...現状高水準を維持しているものの、先行きに対する不透明感がみられる



**農産品**は、野菜・果実の出荷量、出荷額でみると、県外向けの一方たりや才ヶ原、県内向けのほうが好調な動きをみせているものの、全体では低調な動きとなっています。

**金融面**は、設備資金・運転資金とも盛り上がりを欠いてる」とから、全体では弱含みとなる。しかし、**消費者物価**は、全体では弱含みとなる。

**雇用情勢**は完全失業率が依然として高水準で推移しており、有効求人倍率も低水準で推移している。県外からの受求人数もこのところ前年を下回っている。雇用保険受給者実人員は、このところ増加を続けている。このように雇用情勢は依然として厳しさをもつて前年を大幅に上回っている。

なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなつてゐる。